様式2　　平成30年1月26日

平成29年度　評価計画及び自己評価

（ 計画 ・中間 ・(最終) ）　　広南中学校区　校番　2　学校名　呉市立広南中学校

a　学校教育目標	<広南学園> 未来を創る 「誇りを持って故里を語り，受け継ぎ，発展を担う志と力を育てる教育の創造」	b　経営理念 ミッション・ビジョン	〈ミッション〉 （学校の使命）	大きな夢と志を持ち， 社会に貢献する人材を育成する
			〈ビジョン〉 （将来の学校像）	○深い学びの精神と感謝の気持ち，社会貢献への気概をもつ児童生徒を育て，地域から信頼される学校 ○地域文化の拠点として地域の活性化に貢献する学校

c　中期経営目標を踏まえた現状（進捗状況）と今年度の重点	「学びの変革」パイロット校の指定を受け，3年目を迎える。これまで，パイロット校として，課題発見・解決学習の単元開発に留まらず，次期学習指導要領の方向性を踏まえた教育の具現化をめざし，教育目標及び教育内容，教師の指導力の改善を進めてきた。今年度はこれまでの研究の成果を「＋1」を合い言葉に，さらに改善を加えるとともに，小中一貫教育の中での「学びの変革」の姿を明らかにし，それを内外に発信することで，パイロット校としての使命を果たしたい。
育成すべき資質・能力	挑戦・探究　責任・使命　感謝・貢献　協力・協働　知識・技能　情報収集・判断　思考・表現

評価計画（中期経営目標を設定してから　1　・　2　・　(3)　年目）						自己評価					
重点	d 中期（3年間）経営目標	e 短期（今年度）経営目標	f 目標達成のための方策（こんなことをして達成します）	g 指標（効果を見とる目安）	h 目標値	9 月			2 月		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
★★★ 確かな学力の育成	(貫) 義務教育9年間を見通した学力を育成する	「課題発見・解決学習」を手がかりとした授業改善	・「貫きカリキュラム」による開発単元のブラッシュアップ ・Sルーブリックの活用	生活と学習に関するアンケートの「課題発見・解決学習」の肯定的評価	80%	87%	109%	A	89%	111%	A
		読書活動の充実	・読書貯金の継続 ・ビブリオトークの継続 ・教師によるブックトーク活動	生活と学習に関するアンケート「読書習慣」の項目の肯定的評価	70%	69%	99%	B	90%	129%	A
★★ 豊かな心健やかな体の育成	礼節と挑戦心を身につけ，体力づくりに主体的に取組む生徒を育成する	相手を大切にする礼節を誇る学園の校風の確立	・生活ルーブリックの活用 ・3つの約束・5つの合い言葉による小中一貫指導の徹底 ・課題発見・解決型生徒指導の充実	・生徒目標「4項目」に係る教師のA評定以上の割合	85%	74%	87%	B	72%	85%	B
		体力の向上	・「体力ONEUPPROJECT」による主体的な体力向上の推進	・個人内目標を達成した生徒の割合	80%	71%	89%	B	85%	106%	A
		挑戦心の高揚	・「勇気づける声かけ」の実践 ・資格習得「トリプル3」 ・表彰等の活用	・生徒アンケート「挑戦意欲」に係る肯定的評価 ・資格習得への挑戦者数（小中で70名）	80%	91%	114%	A	92%	115%	A
★ 信頼される学校	(貫) 地域に貢献し活力を生み出す学校をつくる	生徒の地域貢献の達成感	・総合的な学習の時間での地域貢献活動PROJECT ・ボランティア活動の充実	・生徒アンケート「地域に貢献した」肯定的評価の割合	95%	96%	101%	A	100%	105%	A
		保護者参加の機会の充実及び学校教育への参画意識の高揚	・土・日曜参観日を年3回実施するとともに，PTCレクや新たな企画等，保護者の学校教育への参画意識を高める工夫をする。	・保護者アンケート「保護者は，PTA活動（学校行事への参加を含む）などを通して教育活動の充実に努力している」肯定的評価の割合	80%	100%	125%	A	96%	120%	A
		地域発信力の充実	・HP・学校だより・学年だより・保健だより（月1回以上の発信） ・メディア（新聞・TV）で「ひろみなみ」の魅力を伝える（3回）	・保護者アンケート「学校は地域への情報発信に努力している」肯定的評価	100%	100%	100%	A	96%	96%	B

【k：評価】
A：100≦（目標達成）　B：80≦（ほぼ達成）＜100
C：60≦（もう少し）＜80　D：（できていない）＜60

様式３

平成30年1月26日

平成29年度　結果の分析及び今後の改善策

（ 中間 ・ 最終 ）

広南中学校区　校番　２　学校名　呉市立広南中学校

重点	d 中期（3年間）経営目標	e 短期（1年間）経営目標	l 結果の分析 （結果と課題をこう考えます）	m 今後の改善策（案） （こう改善します（案））
★★★	（貫）義務教育9年間を見通した学力を育成する	「課題発見・解決学習」を手がかりとした授業改善	教科，総合での挑戦問題の設定やSルーブリックの活用，7つの資質・能力を意識した授業展開や評価を行うことで，目標を達成することができた。特に，「授業では，解決しようとする課題について，『なぜだろう』，『やってみたい』と思います。」の項目では肯定的評価が96％を示しており，「挑戦・探究」の資質・能力の向上が見られる。また「協力・協働」に関する項目でも96％の肯定的評価を得ている。しかし，学年別の結果では，いくつかの項目で未達成のものがあり，学校の授業の予習に関しても課題があるので，重点的に取り組んでいく必要がある。	各教科では引き続き，授業の「めあて」とその評価のためのS基準（Sルーブリック）を生徒と共有することで，めざす姿を明確にした授業を行っていく。また，情報収集や授業の予習に課題があったことから，生徒の活躍場面を想定した「予習課題」を設定し，家で情報収集させることにより，「予習」に関する項目や「家で本や資料を利用した学習」の項目の向上を図る取組を行う。
		読書活動の充実	読書貯金を継続し，毎月１冊以上の読書を目標とさせ，読書活動に取り組ませた。また，2学期はイメージ画コンテストを行い，友だちと読んでいる本について話をする機会を設けた。さらに，各教科で予習課題を出してもらい，家で調べ学習する機会を増やした。	今後も，読書貯金を継続し，読んでいる本について交流する時間を設ける。また，各教科の予習課題についても引き続き取り組んでいく。
★★	礼節と思いやりを誇り，体力づくりに主体的に取組む生徒を育成する	相手を大切にする礼節を誇る学園の校風の確立	生徒の自己評価は高い。しかし教師の評価とは一致していないためこのような結果となっている。自分に厳しい生徒と比較的甘く考えている生徒がおり，自己評価について正当に考えられるように指導していく必要がある。	今年度，生活ルーブリックを作成し，このルーブリックに基づいて評価を行ったが，評価をする時のルーブリックの文言が分かりにくい部分があったので，ルーブリックの改善を行っていきたい。
		体力の向上	今回は自分で目標を設定し，目標を達成するための取組についてそれぞれが考えた。その取組ついてしっかり振り返りができた。取組自体は今後につながるやり方である。結果自体も昨年度より上がっている生徒は多かった。しかし，個人で目標設定したため設定が高すぎて，結果的にクリアできていない生徒もいた。後期に目標の立て方について考えさせ目標設定の改善等を行い，目標を達成することができた。	生徒の体力の向上に関する興味・関心・意欲を引くことが大切である。そのため教育委員会が企画している事業や学校で行うマラソン大会などの行事を活用することで目標をもたせたりすることを継続して行っていきたい。
		挑戦心の高揚	落語やビブリオトーク，高校説明会などの生徒発表の場において，学年での声かけを積極的に行ったり，アドバイスをしたりしたことで，生徒の挑戦心を高めるのに効果があったと考える。その効果があり，2年生の起業企画では，リーダーに立候補する生徒が多かった。また，いじめ撲滅標語や球技大会などで生徒の頑張りを表彰をする場面を積極的に設定することにより，挑戦心の向上につながったと考える。資格取得については，国語科だけでなく，各担任の呼びかけもあり，漢字検定受検者数が，昨年の同時期と比較して2倍になっており，資格取得に積極的である。	・生徒に挑戦させる場面を設定するとともに，挑戦したことを褒めたり，励ましたりする指導を学年で連携しながら進めていく。 ・生徒に挑戦することの意義を伝えるとともに，英検，数検への受検に挑戦するように呼びかける。 ・授業で検定の過去問題を取り扱い，受検への挑戦心を今後も喚起していく。
★	（貫）地域に貢献し活力を生み出す学校をつくる	生徒の地域貢献の達成感	運動会では本番で地域の方へ感謝の気持ちを表すために精一杯の取組，せとうち海援隊では三角浜の清掃活動を行った。また，総合的な学習の時間での地域貢献活動PROJECTについては文化活動発表会を始め，活躍できる機会を多く持つことができた。このような活動から，地域の方から肯定的な評価をもらうことで，生徒の達成感が高まっており，高い評価につながった。	・総合的な学習の時間での地域貢献活動PROJECTについては十分に取り組むことができた。継続して活動していきたい。 ・三角浜の清掃活動，広地区クリーン活動などに行った。地域との連携を深めさらに中身の濃いものにしていきたい。
		PTAの参加の機会の充実	4月30日（日）には，PTA総会及び第1回参観日，次いで，7月8日（土）には，授業参観と地域の方も対象にした広南寄席を，さらに，11月5日（日）には，県教委の施策「学校へ行こう週間」に併せ，道徳の授業参観，入試改革の認識や家庭学習の定着に向けた学校説明会，生徒・保護者・教職員の絆を深めるべく，「PTCレクリエーション」を開催し，「土・日曜参観日の年3回実施」を達成するとともに，保護者の意識調査も目標値を大きく上回ることができた。この結果から，休業日を利用した行事への多くの保護者の参加とともに，内容の工夫を通して本校の教育活動の充実に対する理解の深化が覗える。	・次年度も，本校の教育活動の理解の深化に向けて，土・日曜参観日を実施するとともに，その内容のより一層の充実を図る。 ・今年度は，保護者の学校教育への参画意識の高揚を図る工夫として，PTCレクの総合司会や家庭科の育児教育でのゲストティーチャーとしての参画が挙げられる。次年度も，キャリア発達の視点から，様々な職業についての講話等，より一層の保護者の参画意識の高揚に向けた工夫を図りたい。
		地域発信力の充実	学校だより，保健だよりは月1回程度，学年通信は月1回以上発行できた。また，HP・安心ネットは月2回以上更新し，閲覧率も向上した。このような意欲的な情報発信により，2学期末保護者アンケートの肯定的評価も96%という結果が出た。一方，メディアでは，5月の2年起業企画に向けて，起業家と県中山間地域振興課長を招き，起業の苦労や工夫を学んだ記事に続き，9月には，「五輪金メダリスト高橋尚子さんの来校と講演」，12月には，「落語のプロから学び大舞台に挑戦」，「総合的な学習の時間の充実が認められ文部科学大臣賞受賞」の記事が中国新聞に掲載された。また，RCCテレビの「こちら！くれきん新聞！」でも，特色ある教育活動が紹介され，本校の教育活動を広く情報発信することができた。	・学校からの情報発信に対する肯定的評価は概ね目標値を達成している。今後も意欲的な情報発信に努める。 ・今年度，メディアにおいても，本校の特色ある教育活動が認められ，中国新聞への5回の掲載やRCCテレビでの放映等，広く情報発信ができた。今後も，特色ある学校づくりを推進するとともに，各種メディアとの連携を強めていく。

様式４

平成30年2月6日

平成29年度　　学校関係者評価及び改善策

（　中間・(最終)　）

広南中学校区　校番　２　学校名　呉市立広南中学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標，指標の設定の適切さ	A	○施設一体型小中一貫教育校として，小学校と連携した目標（指標）を掲げ，児童生徒実態を的確に把握し，小学校への乗り入れ授業や合同研修会等による意欲的な授業改善を図るとともに，情報発信の充実と地域人材の活用を行い，保護者・地域との密なる連携と協働を意識した目標設定は高く評価できる。
目標達成のための方策の適切さ	A	○生徒の資質・能力の育成に向けて，各教科の学習指導案の見直しや実施，さらに，読書活動の活性化と表現力の向上を兼ねた「ビブリオトーク」の継続や委員会と連携したイメージ画コンテスト等の新たな試みは高く評価できる。 ○挑戦心の高揚に向けて，各種検定の受検や様々な大会への出品，また，校内行事での表彰場面を仕組んだり，郷土愛や自己効力感の高揚に向けて，総合的な学習の時間での地域貢献活動やボランティア活動（せとうち海援隊清掃活動）の充実を図ったりする方策も適切である。
自己評価の結果と分析の適切さ	A	○各項目において，各種アンケートや学力調査を基にした詳細且つ妥当性・客観性のある分析がなされており，先生方の教育に対する熱意を感じる。
今後の改善策（案）の適切さ	A	○具体的な改善策が考えられ，適切である。今後も，学校の取組や成果と課題及び改善策を，保護者・地域により一層情報発信し，学校に対する協力体制の強化を図ってほしい。
その他	○総合的な学習の時間を中心とした「落語貢献プロジェクト（1年）」，「起業貢献プロジェクト（2年）」，また，昨年の学校評価委員会での平和教育の実施要請を受けて行われた「戦跡調査」に端を発し，地域との協働を意識した創作劇等，「この世界の片隅に広南プロジェクト（3年）」は素晴らしい取組である。今後も，学校関係者評価委員会で出た意見を学校教育に反映して行きたい。 ○参観授業の中で，生徒の真剣さや姿勢の良さ，ノート使用の丁寧さに感心した。また，技術では，今の時代の教材の豊かさを感じ，国語では，グローバル化を意識した意見文の取組等，豊かな感性の育成にもつながると感じた。 ○日本語を正しく使えない若者が増えている。教師自身のことば磨きや積極的な意見を生むための発問の工夫を，生徒指導の面からは，髪の毛の長さや制服の袖丈等の長さの指導や大きな声での発表等，社会に通用する人材育成を進めてほしい。	

※　評価は，A（とても適切），B（概ね適切），C（あまり適切でない），D（まったく適切でない），N（分からない）

学校関係者評価を受けての今後の改善策	○全教科で，新学習指導要領を意識し，資質・能力の育成に向けて，ICTの有効活用等，教材・教具の開発や指導方法・授業展開の工夫改善を図る。 ○「学びの変革」パイロット校として，その研究成果をHP等を通して情報発信し，他校への普及を図る。 ○授業中の言語活動の充実に向け，教師のことば磨きを含め小中で協働して取り組む。 ○「総合的な学習の時間」をにおける第1学年の「落語貢献プロジェクト」，第2学年の「起業プロジェクト」，第3学年の「未来貢献プロジェクト」が持続可能な取組となるように，学習指導案等のブラッシュアップを図る。 ○学校教育への参画意識の高揚や学校行事への参加率の向上に向けて，休日参観・懇談の継続と内容の工夫，ゲストティーチャーの活用を図る。また，学校・学年・保健だよりの発行やホームページ及びメール配信を，引き続き意欲的に家庭・地域へ発信する。